

# 公認会計士 トピックス

## 第8回 女性会計士の活躍促進

PwC's View編集部

はじめに

2016年4月に「女性活躍推進法」が施行され、多様な業界・企業で女性の登用や能力開発が進むなか、公認会計士業界でも女性会計士の活躍を促す動きが広がっています。大手監査法人は女性管理職の増加や若手への研修、働き方改革などを強化していますが、組織内会計士や社外役員として多様な業務に従事する女性も増えていることから、女性会計士のキャリア形成を支援する制度・環境整備は、公認会計士業界全体の課題としてますます重要視されています。

こうしたなか、日本公認会計士協会(JICPA)は女性初の会長を務める関根愛子会長の就任後、2017年1月に「女性会計士活躍促進協議会」を設置しました。同協議会は全国各地での復職研修やネットワーキングイベントなどを通じ、女性会計士が個性・能力を発揮して活躍できる土壌づくりに力を入れています。

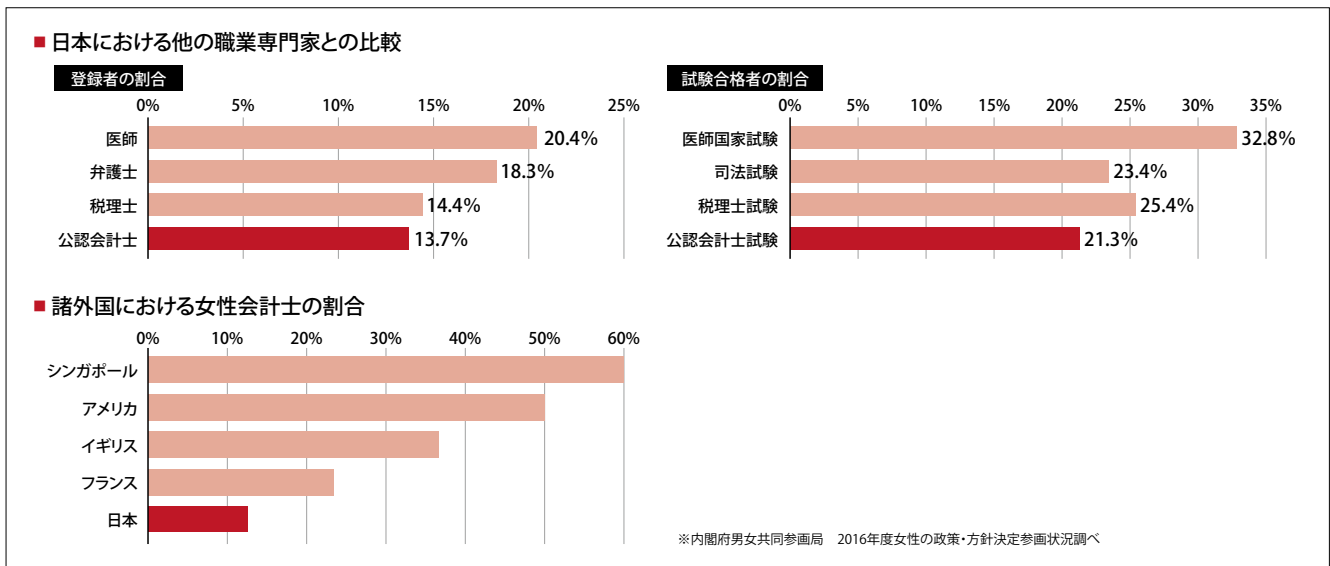
本稿では、わが国における女性会計士を巡る現状やJICPAおよび同協議会の取り組み、最近の主なイベント事例について紹介します。

### 1 日本の女性会計士を巡る現状

2017年5月現在、日本の公認会計士における女性比率は13.7%(4034人)で、同60%のシンガポールや同50%の米国、同40%の英国といった諸外国と比較すると圧倒的に低いです。また、過去10年間の公認会計士試験合格者の女性比率は20%前後で推移し、医師国家試験や税理士試験、司法試験合格者の女性比率より低い水準となっています(図表1)。

こうした背景から、JICPAは2015年に女性会員・準会員へのアンケートおよび意見交換会を行い、女性会計士が少ない理由を検証しました。その結果、女性会計士は「社会的に信頼される有資格者として性別を気にせず働くことができ、個人の能力で評価される」「ブランクが長くても仕事を再開できる」「ライフイベントに左右されず、自宅での業務も可能」といった点を魅力に感じている一方、キャリアを構築する上で「女性会計士間のネットワーキングが少なく、他者の

図表1：公認会計士業界における女性活躍の現状について



キャリアを知る機会が乏しい」「専門職ゆえ、5年離れると最新知識のキャッチアップに苦勞する」といった悩みを抱えている実態がわかりました。「育児中でも働きやすい職場環境を整えるとともに、離職した女性が再就職できる方法を考えてほしい」というニーズも寄せられ、復職へのハードルを高く感じている女性が少なくないことが明らかになりました。

JICPAはこれらの意見を分析し、女性会計士の「キャリア形成上の課題」として①女性会計士のロールモデルが不足しており、多様なキャリアパスを描きにくい、②復職時に情報格差が生じ、知識のキャッチアップに不安がある、③女性会計士のネットワークが未整備——などを抽出しました。加えて、世間から「会計士は激務で、育児との両立が困難」という印象を抱かれている点も問題点として認識しました。日本の監査法人は、一般的に公認会計士試験合格者の中からスタッフを採用するため、女性受験者の増加に向けて「会計士業界のイメージ向上」も重要課題としました。

## 2 JICPAの取り組み

こうした状況を改善するため、JICPAは2017年1月に「女性会計士活躍促進協議会」を設置しました。JICPAの中で女性の活躍促進を目的とした常設委員会を設けていたのは近畿会のみ(2016年まで)で、全国横断的かつ常設の女性支援組織は初の試みです。協議会長委員28人が研修企画専門委員会、就業・復職支援専門委員会、広報・ネットワーキング専門委員会に分かれ、多様な企画に取り組んでいます。

「結婚・出産を機に自ら会員登録を抹消する女性会計士も多く、非常にもったいない」(関根会長)との思いから、研修企画専門委員会と就業・復職支援専門委員会でワークライフバランスの実現やキャリアの多様性を促す施策を着手しました。2017年7月からは、各監査法人のワークライフバランスおよび女性活躍推進に係る制度の意見交換会を始め、残業なし勤務など各制度の適用人数・実効性、女性の評価、監査法人内の女性会計士ネットワークなどの事例を共有し、公認会計士業界全体の課題である「女性の昇進速度の遅さとその原因」「長時間労働と人手不足」「男性の意識改革」についても議論しています。同年11月からは復職を望む女性会計士の知識をブラッシュアップする「リスタート応援研修」(計4回)を開催しています。復職準備や育児との両立に係る不安を解消するワークショップや、組織内会計士・独立開業者・社外役員といった異なるフィールドで活躍する女性会計士のパネルディスカッションなどが行われました。現在、研修のeラーニング化にも取り組んでいます。

一方、女性の会計士志願者増加に向けた施策も開始しました。2017年12月には都内で200人規模の女子学生向け

シンポジウムを開催し、海外駐在経験者やフリーランスなど多方面で活躍している女性会計士との交流会を実施。公認会計士の魅力向上に努めました。

## 3 初の「女性会計士フォーラム」を開催

同協議会の“2017年の目玉企画”ともいえるイベントが、広報・ネットワーキング専門委員会が中心となり、9月に金沢市内で開催した「女性会計士フォーラム」です。女性会計士が自身のキャリアパスを考え、ネットワークを構築する初の試みで、全国から60人超が参加しました。

第一部のパネルディスカッションでは、野村ホールディングス社外取締役の園マリ氏、コカ・コーラ ボトラーズジャパン執行役員の青山朝子氏、同協会近畿会副会長の北山久恵氏が登壇し、女性会計士ならではの苦勞、キャリアアップの際に会計士資格がどのように役立ったか、自分なりのキャリアの拓き方、部下の育成・モチベーションの促進方法などについて活発な意見交換が行われました(写真)。第二部のワークショップでは現在の仕事・生活における理想と現実、そのギャップを埋めるための具体策、将来のキャリアビジョンについて、チームごとにディスカッションが行われました。こうした活動を通じて同じ境遇にある全国の女性会計士の交流が促進され、ネットワーキング活動の取り組みとして一定の成果を挙げています。

JICPAは女性会計士の人脈構築と情報交換を促すため、全国16に分かれて存在するJICPAの地域会においてもネットワーキングイベントを企画しています。これまでに千葉会・京滋会・北海道会・東海会で同様のイベントを開催しました。これと並行し、JICPAのウェブサイトでも多様な女性会計士のロールモデルを紹介しています。また、JICPAは各種活動を「会計・監査ジャーナル」を通じて継続的にPRする考えです。

